

小児科医がいなくなる 広報げろ 2007.4

小児科医がいなくなる

皆さん、下呂市内の病院で小児科医がいなくなったらどうしますか。現在県立下呂病院で二人、市立金山病院で一人の小児科医が勤務していますが、この方々が病院をやめられた時、その後任のあては全くありません。小児科勤務医のなり手が少なくなっている今日、院長でも、市長や県知事でも小児科医を病院に連れてくることは出来ないのです。

小児科勤務医が少なくなっている原因は勤務が過酷であることです。現在、病院勤務医は通常勤務に引き続いて当直勤務に入ると、翌日また通常勤務となり代休はありません。昼間、外来と入院患者を診て、さらに夜、時間外患者の診療に当たるといのはとても疲れます。また、病院に勤務する医師は24時間、入院患者にも対処しなければならないので一人では勤まりません。特に小児は手がかかり複数の医師によるチームで診ていかなければならないのです。

病院勤務小児科医が少なくなるとその病院ではお産も出来なくなります。産婦は産後、産科医が診ますが、新生児は生まれてすぐ小児科医の手に委ねられます。生まれる子どものすべてが正常ではないので、産科医は小児科医がいなければ安心してお産を扱えず、小児科医も一人では気を抜くことも出来ず複数の医師によるチーム医療がどうしても必要なのです。

少子化問題が問われていますが、子どもの健康を守り安全に子育てできる環境は小児科医のいる病院があつてこそと考えます。

最近の調査では夜間診察に訪れる小児患者の70%は親の都合によるもので、本当に緊急受診が必要な患者は5%程度となっています。昼間は仕事があるから夜しか連れてこれないという考えが小児科医を苦しめ、その他の勤務医をも圧迫し病院の存続をも危うくしているのです。小児科医のいる病院を守るために皆さんに是非心がけていただきたいことがあります。子どもの健康には常に注意を払い、病院受診は出来る限り時間内をお願いします。夜間異常が発生したときはまずかかりつけ医にご相談ください。そのためにも普段かかりつけ医を持ち、かかりつけ医に病院受診を判断していただくのがよいでしょう。また電話相談を受けられるのもよいでしょう。下呂市ではまだ相談窓口は作られていませんが、岐阜県では小児救急電話相談を058-240-4199で応じています。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦